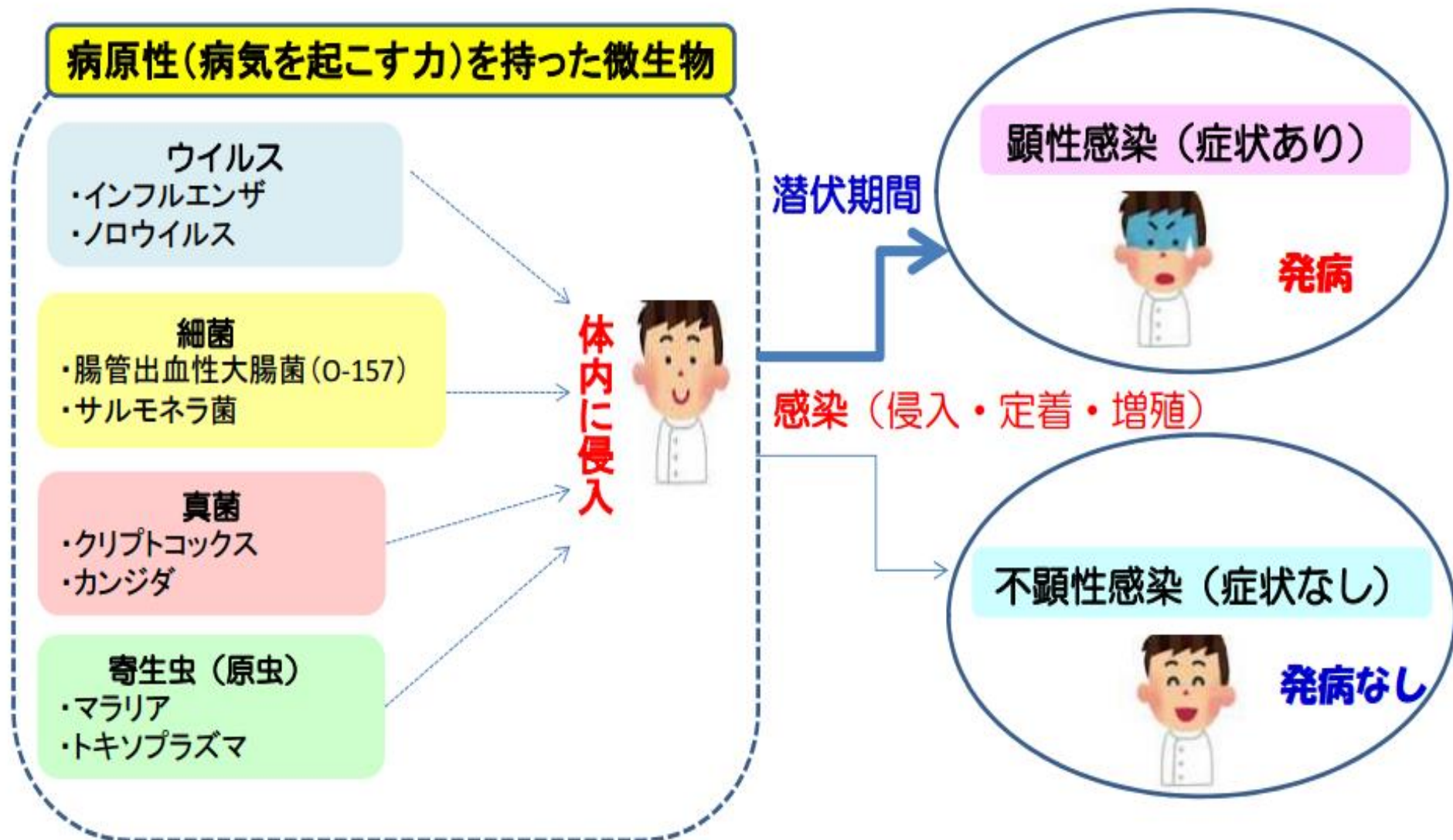


感染・まん延予防について ～施設における感染症対策～

小規模特別養護老人ホーム 昂
石栗 千秋

感染症とは



感染経路

体外にいた病原微生物が体内に入るまでの道のり

接触感染

皮膚、キス、性交など



飛沫感染

咳やくしゃみで飛沫が飛び散り、他の人がそれを吸って感染



空気感染

空気中に浮遊するウイルスを吸い込むことにより感染



経口感染

病原体を含んだ食品を食べるなど口から感染



経皮感染

蚊に刺される、傷から菌が入るなど皮膚から感染



咬傷感染

ネズミや狂犬病の犬にかまれたときに感染



血液感染

ウイルスに感染している人の血液への暴露



垂直感染

妊娠中や出産時に母から子へ



飛沫



5μm以上 1~2m以内

飛沫核

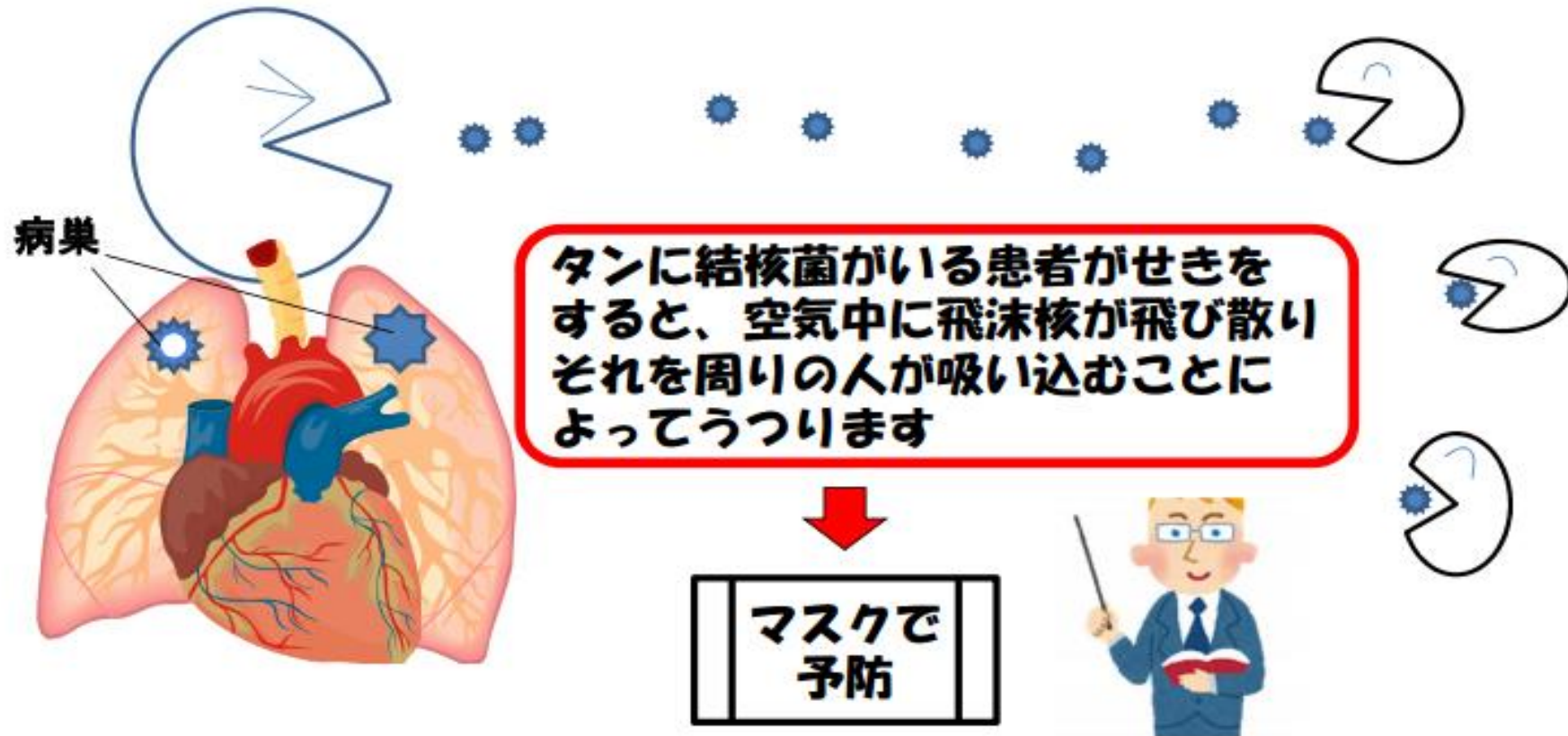


5μm以下 数10m以上

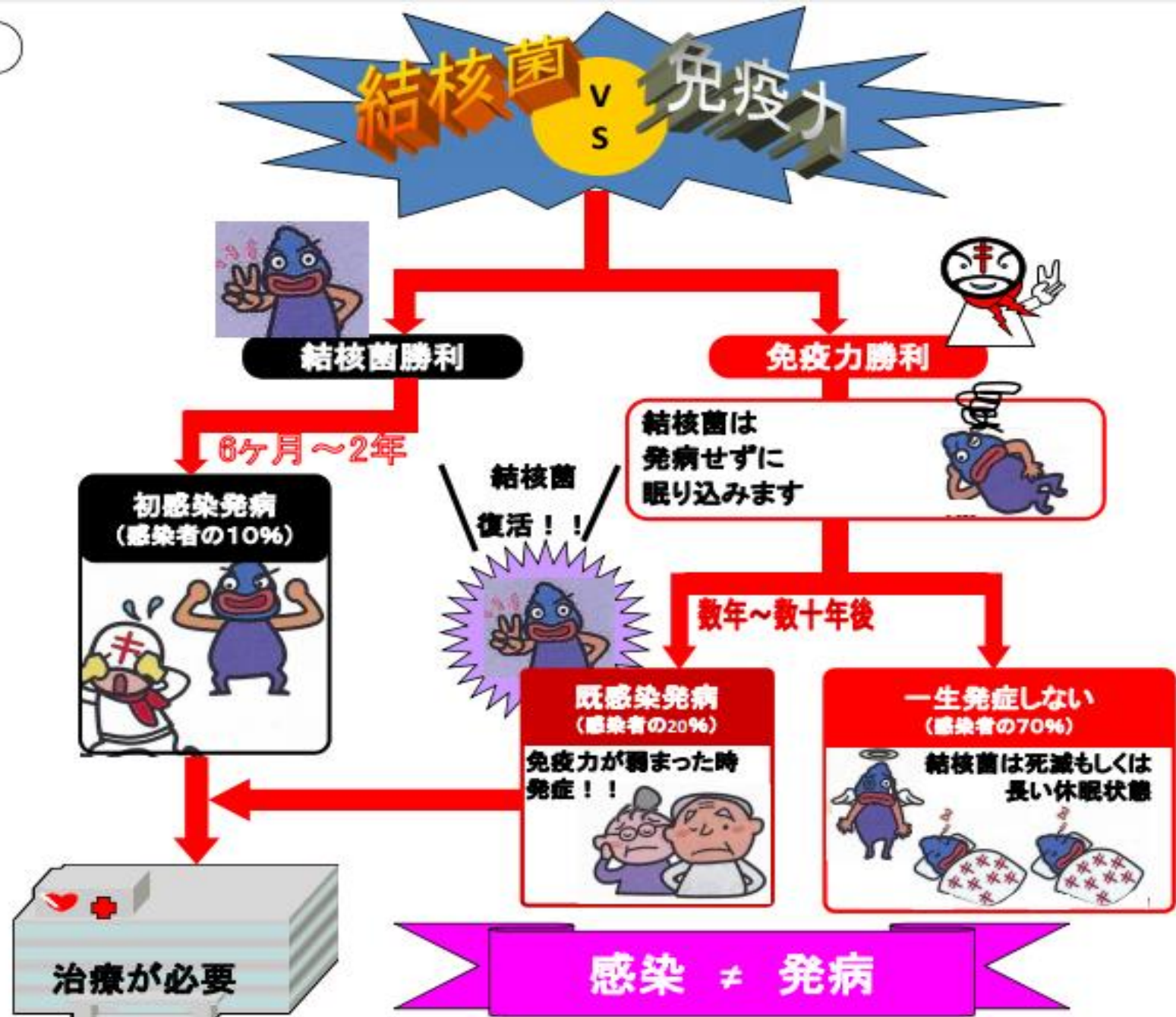


結核はどうやって感染するの？

咳やくしゃみで「空気感染」します



結核の感染と発症のメカニズム



インフルエンザはどうやって感染するの？

インフルエンザの感染経路

飛沫感染



咳やくしゃみをする



吸い込んでしまう



接触感染



手すりや
ドアノブに触る



手洗いしないと
手に付着する



眼や鼻をこする



インフルエンザの種類

A型	B型	C型
		
<p>ウィルスが変異しやすく、たくさんのタイプが存在します。毎年少しずつ変化しながら世界中で季節性の流行を引き起こします。</p>	<p>ウィルスが変異しにくく、限られたタイプしか存在しません。その為、ワクチンによる予防が効果的です。A型ほどの中高は起こしません。症状はA型よりやや軽いとされています。</p>	<p>表面を覆う突起の性質が左二つの型と大きく違う為、ウィルスとしての特徴もかなり異なっています。大きな流行は起こさない為、ワクチンの対象から外されています。</p>

インフルエンザと風邪の違い

インフルエンザ		風邪
インフルエンザウィルスによる 飛沫感染 + 接触感染 + 空気感染	原因	種々の風邪ウィルスによる 接触感染
突然劇的に症状が出現し、 全身症状が重い (発熱、強いだるさ、食欲不振、 全身の痛み、頭痛等)	主たる感染源	症状は徐々に重くなる (くしゃみ、鼻水、喉痛、咳等 全身に先行して出現する)
38度以上	発症	通常37.5度前後
強い	熱	少ない
強い	悪寒	少ない
強い	倦怠感	少ない
強い	全身の痛み	ない



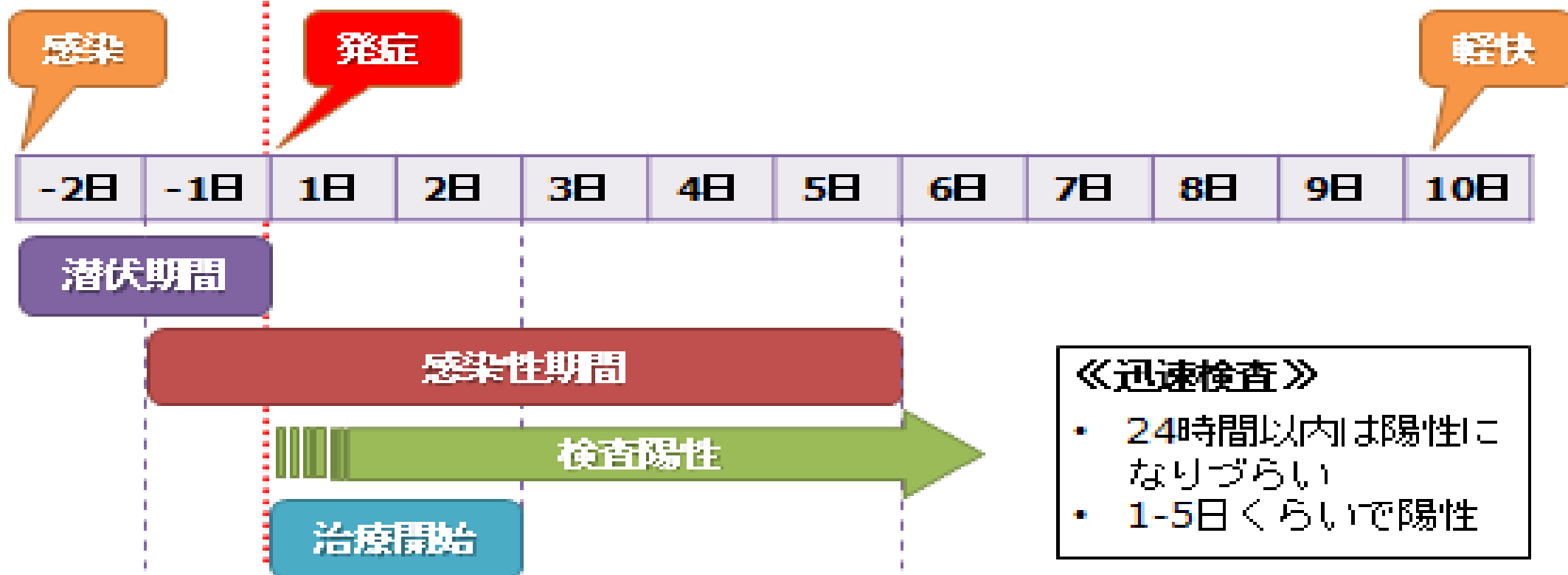
インフルエンザの経過

《症状（発症初期）》

- ・ 発熱
- ・ 全身倦怠感
- ・ 関節痛・筋肉痛
- ・ 頭痛
- ・ 食欲不振 等

《症状（発症後期）》

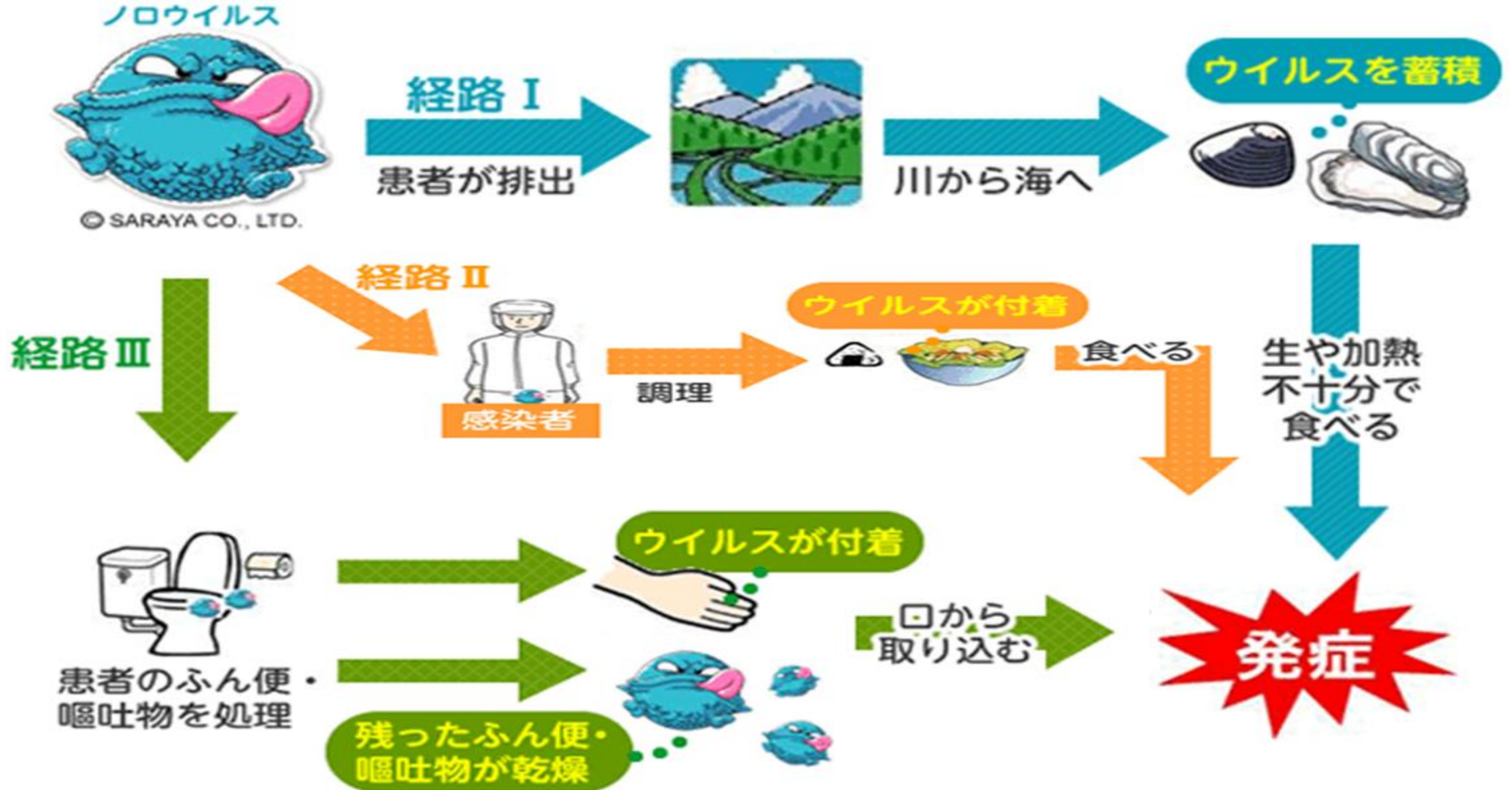
- ・ 咳
- ・ 咽頭痛
- ・ 鼻汁
- ・ 嘔気 等



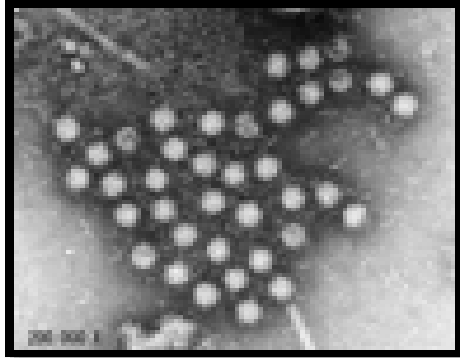
《迅速検査》

- ・ 24時間以内は陽性になりづらい
- ・ 1-5日くらいで陽性

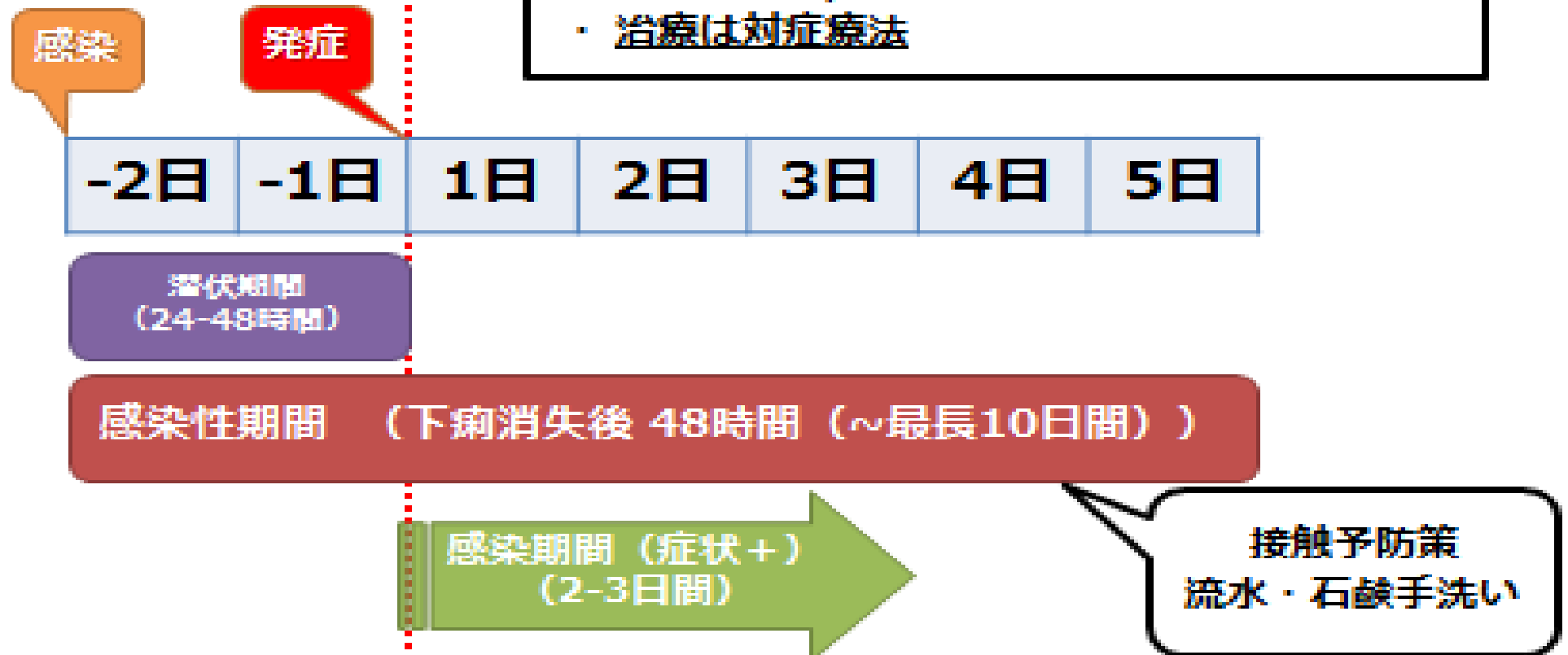
ノロウイルスはどうやって感染するの？



ノロウイルス感染症



- ・ 感染力が強い
- ・ ウイルスが少量（10-100個）でも発症
- ・ 冬に多い（全シーズン発症はある）
- ・ 汚染された食物（カキ等）、水を介して感染
- ・ 基本は接触感染（嘔吐後は飛沫感染もある）
- ・ 症状は嘔気/嘔吐・下痢・腹痛・発熱
- ・ 治療は対症療法



施設内感染確認

施設内感染の定義：

- ・職員1名以上がインフルエンザ陽性
もしくはノロウィルス陽性
- ・入所者様がインフルエンザ、ノロウィルスが
疑われる症状が出た時

施設内感染対策委員会の招集

感染症が発生したら

- 1 感染の発生状況の把握
- 2 感染拡大の防止
- 3 医療処置
- 4 行政への報告
- 5 関係機関との連携

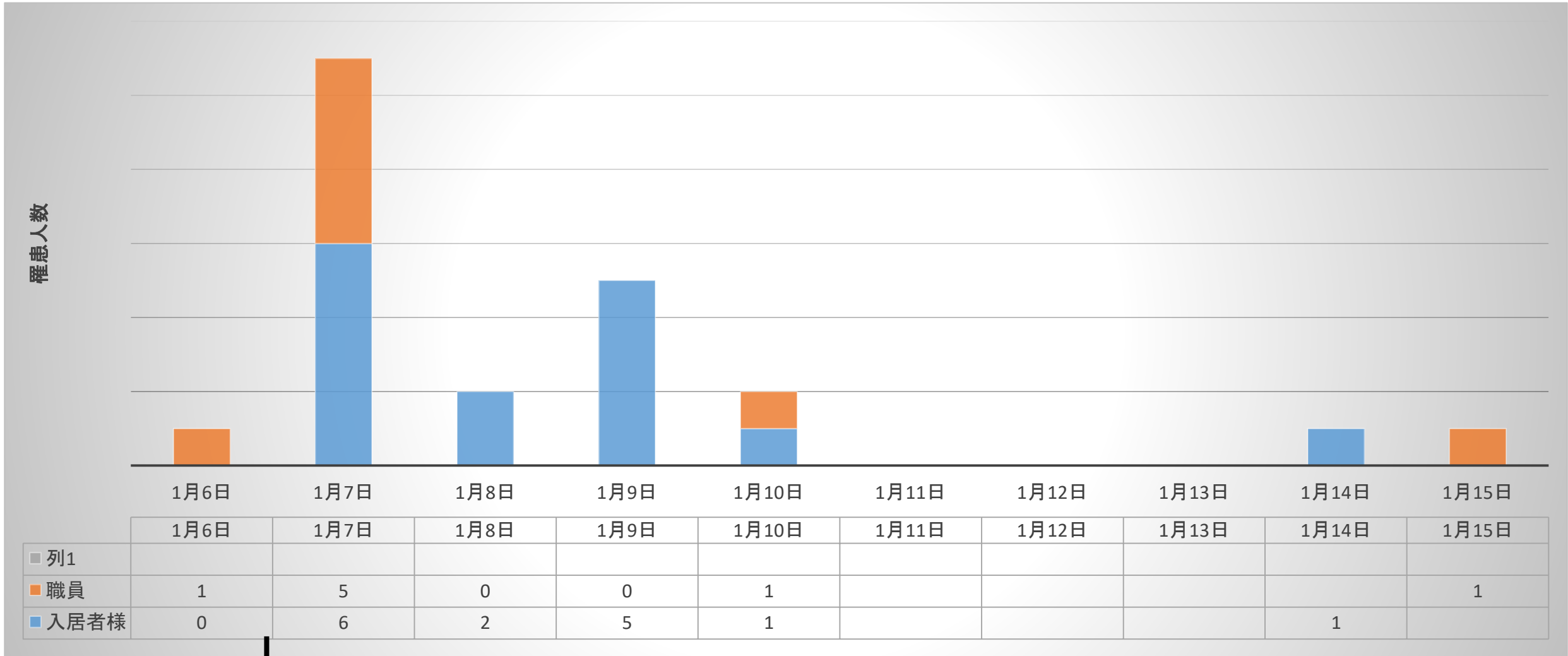
発生時の対応

- ①インフルエンザの発生状況の確認(どのユニット、誰、どんな状況?)
- ②ユニット居室隔離の確認(誰が、どこをチェック?)
- ③ゆきよしクリニックへ報告用紙の作成→看護師(毎日)
- ④理事長に報告→施設長→保健所へ連絡
- ⑤食事提供をディスポ食器にするか?
- ⑥入浴中止期間の確認
- ⑦必要物品の調達
- ⑧ご家族へ面会中止の報告(CM,相談員)当日中
- ⑨体調不良入居者ご家族への状態報告(CM,相談員)当日中
- ⑩休憩は各自で場所や時間等に配慮し集団感染を防ぐ
- ⑪職員は感染予防のため出勤時に熱や咳等の全身症状を確認する

その他の対応策

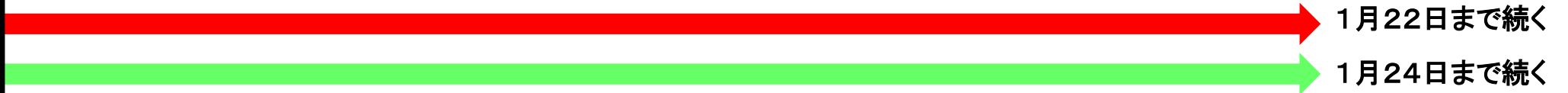
- 1日2回の検温 (AM・PM)
- 体調不良者発見報告
 - 例: 咳、痰、嘔吐、下痢、バイタル、SPO2の異常
- 温度: 19℃
- 湿度: 40～60% (加湿をかける為濡れタオルを掛けたり洗面台にお湯をはる)
- 換気、環境整備: ゴミ捨て、整理整頓
- 1ケア1手洗い、ゴミやオムツは他の居室に持ち込まない。
- 職員の就業停止期間: インフルエンザ陽性と診断され、発熱した日を0日目とし、5日目、もしくは解熱してから2日間

今年1月の当施設での感染経過報告



ユニット隔離開始・入浴中止

面会中止



1月22日まで続く

1月24日まで続く

感染予防対策

感染経路を絶つ

感染源を持ち込まない
感染源を拡げない
感染源を持ち出さない

手洗い

うがい

咳エチケット

汚物の始末



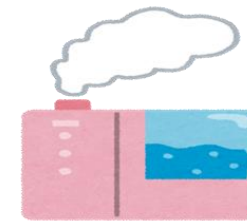
日頃の健康管理

休養・食事・人込みを避ける・予防接種など



環境整備

換気・加湿・温度管理など



手洗いをしそこないやすい部位



出典

Taylor, L. J : An evaluation of handwashing technique. 1. *Nursing Times* 12 : 54-55, 1978

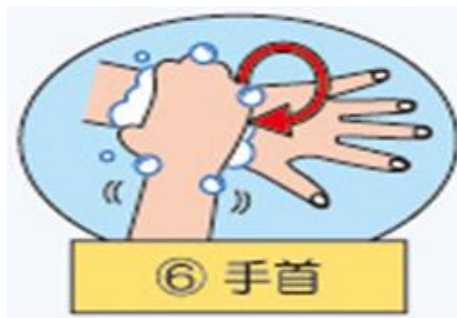
正しい手洗い方法



手指の各部分についている汚れをこすり落とすような感覚で丁寧に行いましょう。

①から⑦までを2回行います。

最後に、消毒用アルコールで消毒しましょう。



正しいうがいの仕方

うがいのしかた

手順1

口の中を
クチュクチュ

口に水を含み、そのまま口の中で強めに「クチュクチュ」として、はき出します。



手順2

「ガラガラ」を
15秒

口に水を含み、上を向いて15秒くらい、なるべく、のどの奥まで水が入るように「ガラガラ」として、はき出します。



手順3

くり返し
「ガラガラ」

もう一度口に水を含み、上を向いて「ガラガラ」をくり返します。



咳エチケット

ツバや鼻水がついたら
手を洗いましょう



使ったティッシュは
蓋付きゴミ箱へ

周りの人から
顔をそむけて
1m以上離れる



ティッシュ等で
鼻と口を押える



正しい方法で
マスクを着用する



咳エチケットの
ご協力をお願いします

ノロウイルスによる食中毒予防のポイント

健康管理

食べ物や健康状態に注意

症状がある時は食品を扱わない

症状がある時はすぐに報告する

手洗い

トイレに行った後

調理の前

汚れの残りやすいところを丁寧に

消毒

方法① **塩素消毒**

洗剤などで十分に洗浄し、塩素濃度200ppmの次亜塩素酸ナトリウムで拭く。

方法② **熱湯消毒**

熱湯(85℃以上)で1分間以上加熱する。

鼻の感染予防キット



感染予防対策

感染経路を絶つ

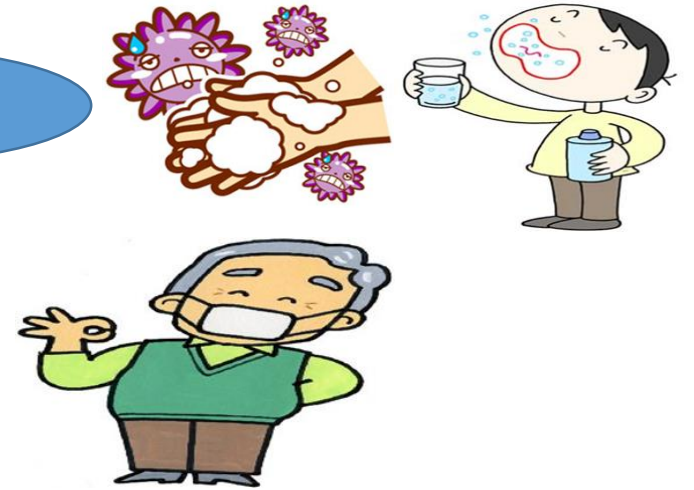
感染源を持ち込まない
感染源を拡げない
感染源を持ち出さない

手洗い

うがい

咳エチケット

汚物の始末



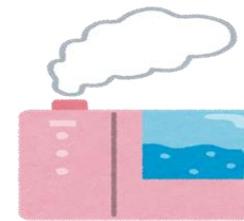
日頃の健康管理

休養・食事・人込みを避ける・予防接種など



環境整備

換気・加湿・温度管理など



ご静聴ありがとうございました

Thank you

